

## 平成 25 年度第 2 回例会の報告

災害対策長部会担当理事 日高真吾

7 月末に集中豪雨に見舞われた中国地方。萩市では、萩市立須佐歴史民俗資料館が冠水するなどの被害が生じた。本学会では、被災した板絵の保存修復設計の支援要請を受け、10 月 11 日に修復設計のための調査をおこなうこととした。また、この機会を利用して、被災した民俗文化財の応急処置をおこなっている地元の博物館・ボランティアの関係者の方々との意見交換を兼ねた勉強会を学会の第 2 回例会として 10 月 10 日に実施した。なお、この例会は、人間部会研究機構との共同主催とし、共催として萩博物館、NPO 萩まちじゅう博物館の協力を得て、萩博物館で実施した。

例会の内容は、これまで災害で被災した文化財の修理事例の紹介を中心としたものであり、日高のほうから「東日本大震災における民俗文化財の応急処置」、和高智美会員から「東日本大震災で被災した民俗文化財の一時保管場所の運用事例について」、岡泰央理事から「防府市阿弥陀寺で被災した大般若経の修理事例」の発表をおこない、豪雨で被災した文化財の今後の対応について考える会となった。本例会は 34 名の参加をいただき、現在、萩でおこなわれている応急処置について、東日本大震災の経験をはじめ、これまでの被災文化財レスキューについての情報交換がおこなえたものとする。



萩博物館 樋口副館長からの挨拶



会場の様子